

StarOS の .chassisid ファイル (シャーシ ID) をバックアップする ASR5x00 は 20 をより高いリリースし、

目次

[概要](#)

[背景説明](#)

[問題： シャーシ キー値を同じノードの同じ 設定のために動作するためにバックアップすること不十分。](#)

[解決策](#)

概要

この資料に StarOS リリース 20 の .chassisidfile (シャーシ ID) をおおよびより高いバックアップする方法を記述されています。

背景説明

シャーシ キーがコンフィギュレーション ファイルの暗号化されたパスワードを暗号化し、復号化するのに使用されています。2つ以上のシャーシが同じシャーシ キー値で設定される場合、暗号化されたパスワードは同じシャーシ キー値を共有するシャーシの何れかによって復号化することができます。これへの結果として、ある特定のシャーシ キー値は別のシャーシ キー値と暗号化されたパスワードを復号化できません。

シャーシ キーがファイルで保存され、マスタ鍵として保護機密データのためにコンフィギュレーション ファイルで (パスワードおよびシークレットのような) 使用されるシャーシ ID を生成するのに使用されています

リリース 15.0 に関してはおおよびより高い、シャーシ ID はシャーシ キーの SHA256 ハッシュです。シャーシ キーは CLI コマンドによるまたは速いセットアップ ウィザードによるユーザによって設定することができます。シャーシ ID がない場合シャーシ ID を生成するのに、ローカル MAC アドレスが使用されています。

リリース 19.2 に関してはおおよびより高い、ユーザは速いセットアップ ウィザードか CLI コマンドによって明示的に シャーシ キーを設定 する必要があります。それが設定 されない場合、ローカル MAC アドレスを使用してデフォルト シャーシ ID は生成されます。シャーシ キー (およびそれ故にシャーシ ID がない時)、機密データは保存されたコンフィギュレーション ファイルに現われません。

シャーシ ID は 32 バイトとユーザによって入力されるシャーシ キーの SHA256 ハッシュ (base36 形式で符号化される) 保護します乱数をです。これはシャーシ キーにおよびシャーシ ID にキー セキュリティ用の 32 バイト エントロピーがあること保証します。

シャーシ ID が利用できない場合コンフィギュレーション ファイルの機密データのための暗号化

および復号化ははたらきません。

問題：シャーシキー値を同じノードの同じ設定のために動作するためにバックアップすること不十分。

リリース 19.2 から開始する動作の変更が原因で同じノードの同じ設定を実行ことはできるためにシャーシキー値をバックアップすることはもう十分ではないです。

さらに、設定されたシャーシキーに接続されるランダム 32 バイト数が理由で同じシャーシキーに基づいて生成される異なるシャーシ ID が常にあります。

それは同じ古いキーが入っても CLI コマンド シャーシ keycheck がなのでそれ常にリターン陰性なげ今隠されるか理由です。

(StarOS がシャーシ ID を保存するかところで) (、たとえば /flash ドライブのすべてのコンテンツが失われたときに) 保存された設定からの StarOS マシンを回復ことはできるために .chassisid をバックアップすることを required

シャーシ ID は StarOS ハードドライブで /flash/.chassisid ファイルで保存されます。このファイルのバックアップの最も容易な方式はバックアップサーバへファイル transfer プロトコルによってそれを転送することです:

.chassisid ファイルは非表示 1 およびであることを見るようにより新しいとそれをできません隠しファイルとのファイル管理プログラムオペレーションをすることリリースします。たとえばこのエラーはリリース 20.0.1 と表示する:

```
[local]sim-lte# copy /flash/.chassisid /flash/backup
Failure: source is not valid.
[local]sim-lte#
または
```

```
[local]sim-lte# show file url /flash/.chassisid
Failure: file is not valid.
```

解決策

今でもこのプロシージャによってこのファイルにアクセスする方法があります:

ステップ 1: .chassisid ファイルをです /flash/.chassisid で現在確認して下さい。

```
[local]sim-lte# dir /flash/.chassisid
-rw-rw-r-- 1 root root 53 Jun 23 10:59 /flash/.chassisid
8 /flash/.chassisid
Filesystem 1k-blocks Used Available Use% Mounted on
/var/run/storage/flash/part1 523992 192112 331880 37% /mnt/user/.auto/onboard/flash
```

ステップ 2.非表示 モードにログインして下さい。

```
[local]sim-lte# cli test-commands
Password:
```

```
Warning: Test commands enables internal testing and debugging commands
USE OF THIS MODE MAY CAUSE SIGNIFICANT SERVICE INTERRUPTION
[local]sim-lte#
```

注: 設定される非表示 モード パスワードがない場合これでそれを設定して下さい:

```
[local]sim-lte# cli test-commands
Password:
Warning: Test commands enables internal testing and debugging commands
USE OF THIS MODE MAY CAUSE SIGNIFICANT SERVICE INTERRUPTION
[local]sim-lte#
```

ステップ 3.デバッグ シェルを開始して下さい。

```
[local]sim-lte# debug shell
Trying 127.0.0.1...
Connected to localhost.
Escape character is '^'.
Cisco Systems QvPC-SI Intelligent Mobile Gateway
[No authentication; running a login shell]
```

ステップ 4. /flash ディレクトリで移動して下さい。 ファイルがそこにあるかどうか確認して下さい。

```
sim-lte:ssi#
sim-lte:ssi# ls
bin cdrom1 hd-raid param rmm1 tmp usr
boot dev include pcmcial sbin usb1 var
boot1 etc lib proc sftp usb2 vr
boot2 flash mnt records sys usb3
sim-lte:ssi#
sim-lte:ssi# cd flash
sim-lte:ssi# ls -a
. ldlinux.sys restart_file_cntr.txt
.. module.sys sftp
.chassisid patch staros.bin
crashlog2 persistdump syslinux.ban
crsh2 rc.local syslinux.cfg
```

ステップ 5.非表示 1 に隠しファイルをコピーして下さい。

```
sim-lte:ssi# cp .chassisid chassisid.backup
sim-lte:ssi#
sim-lte:ssi#
sim-lte:ssi# ls
chassisid.backup patch staros.bin
crashlog2 persistdump syslinux.ban
crsh2 rc.local syslinux.cfg
ldlinux.sys restart_file_cntr.txt
module.sys sftp
```

ステップ 6.デバッグ シェルを終了して下さい。 問題なしで作成されるバックアップ ファイルを転送できるはずです。

```
sim-lte:ssi# exit
Connection closed by foreign host.
[local]sim-lte#
[local]sim-lte# copy /flash/chassisid.backup /flash/chasisid.backup2
*****
Transferred 53 bytes in 0.003 seconds (17.3 KB/sec)
[local]sim-lte#
[local]sim-lte#
[local]sim-lte# show file url /flash/chassisid.backup
1ke03dqfdb9dw3kds7vds1vuls3jnop8yj41qyh29w7urhno4ya6
```